

平成30年度 第1回豊橋市総合教育会議議事録要録

平成30年6月14日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第1回 総合教育会議	
日時	平成30年6月14日(木) 午後1時30分～3時30分
場所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	佐原 光一 市長, 山西 正泰 教育長 朝倉 由美子 教育委員, 高橋 豊彦 教育委員 渡辺 嘉郎 教育委員, 内浦 有美 教育委員
事務局	古池 弘人 教育部長 駒木 正清 教育監 角野 洋子 教育政策課長 木下 智弘 学校教育課長 村田 直広 生涯学習課長 ほか 4名 全10名
その他	傍聴人 6名

議 事 日 程

協議事項

- ・子どもの体力・運動能力向上に向けて
- ・「少年自然の家」と「野外教育センター」のあり方について

その他

今後の協議事項について

連絡事項 …次回開催日程 ・平成30年9月6日(木) 15:00～

(市長)

本日は、今年度第1回目の総合教育会議でございます。それでは、お手元にあります資料の1枚目の次第に沿って会議を進めてまいります。協議事項につきましては、

- 1 子どもの体力・運動能力の向上に向けて
- 2 「少年自然の家」と「野外教育センター」のあり方について です。

それでは、まずは「1 子どもの体力・運動能力の向上に向けて」事務局より説明をお願いします。

協議事項①

子どもの体力・運動能力の向上に向けて

■教育政策課長 協議事項について資料説明

(市長)

それでは、ただいまの説明を受けて、まず資料の内容について確認したいこと、データの関係で知りたいことなどありましたらお願いします。

(高橋委員)

資料を見てみると、「好き」「楽しい」などの比較的評価が難しいところを踏まえたうえで議論することになると思います。まず、5ページ、6ページを見て3つのパターンで比較的差が出ています。

合同授業の場合は、「好き」「楽しい」は優位な変化はありませんが、運動する子が増えた。アウトリーチ授業とスポーツ鬼ごっこに関しては、「好きです」のキーワードで優位な変化が見られた。特にアウトリーチ授業の実施校に関しては、他のデータと比べると特徴的な結果が出ているので、もう少し深い考察など何かあればお願いします。

(教育政策課長)

具体的に先生たちのご意見をアンケートのような形で定量的にとったものはありませんが、下地小でいうと、バスケットの部活がない中で、フェニックスの選手が来てくれてバスケットやるということは、今まで経験がなかった子たちに選手のダンクシュートを見せてくれますので、プロ選手のすごさとか、バスケットの面白さが視覚的・体感的にわかりやすいということが一つあったと思っています。

アウトリーチ授業の「増えた」という項目で、半数ぐらいが「増えた」と言っているのですが、増えた内訳は、もともと好きであった、あるいは、やや好きであったという層が「増えた」となっている。

(市長)

運動が嫌いな子たちの運動量が増えたわけではないですね。好きな子がよりやるようになったのなら、ますます差が開きますね。

(教育政策課長)

スポーツ鬼ごっこは、やや嫌いという層の子も運動する時間が増えたと言っていますので、競技ではなく、鬼ごっこのように簡単なルールで走るといようなスポーツが嫌いな子を好きにする仕掛けとしては、わかりやすいという認識でおります。

(高橋委員)

今話を聞くと、身近な遊びに近いようなものはより広く効果があると言えますね。子どもとの関わりから言いますと、この3つの事例の中で、2番目のアウトリーチの場合は、指導する人としてプロに近いような人が入ると、そもそも好きだった人がより好きになる効果がありますね。

(市長)

少し見比べて面白いのは、合同授業を実施したところだけがスポーツを好きな人は少ないですが、体育の授業が好きだという人は多い。他の二つは、スポーツは好きだが、体育の授業はあまり好きではない。この違い何でしょうか。

(教育政策課長)

きっと全部がそうではないですが、感覚としては小規模の学校の方が体育の授業が好きだという子が多いように思います。

(高橋委員)

鬼ごっこというのは、(他の学校の)知らない子を追っかけてもつまらないものではないでしょうか。「あいつを鬼にしてやれ」といような気持ちで走るのであって、遊びの中でそういう要素が出るのではないかと思います。

(市長)

他にお気づきのことはないですかね。

(朝倉委員)

合同授業の場合、男女の差というか、区別なくデータが出ているんですけど、女の子が好きになったとか男の子が増えたとかそういう結果はないのでしょうか。

(教育政策課長)

合同授業の場合、nが42と数がもともと少ないので、ここでいうと、「運動やスポーツが好きですか」という項目も一人が減ると3ポイント減ってしまいます。

(朝倉委員)

この状態で行くと、目標はどちらも80%と言っているのに、届くのでしょうか。

そもそも子どもの遊びはアウトドアではなくなってきている時代の中で、「外で遊びなさい」と言っても、「外では遊びたくない」という子もいるのではないのでしょうか。

(教育長)

長放課は、子どもたちはよく外に出ます。サッカー、ドッチボール、鬼ごっこ、縄跳びなどをグループでやっています。遊具で遊んでいる子もいます。本を読みたい子は読んでいますが、学校も「外で遊びなさい」という指導はしているものですから、多くの子が外で遊んでいます。

(市長)

「あれもこれやってはいけない」と規制されているから、今の子どもたちは、自分たちでルールを作ることによって安全を守ることができなくなっているのですね。昔は、「ガラス割れるから、あっちに打ってはだめ」というように自分たちでルールを作っていたじゃないですか。今の子どもたちは、ルールを丁寧に教えられ、守らないといけないことはたくさんありますがために、こうなっている感じはすごくするのですが。与えられたルールで遊んでいて、自分たちで安全にするためのルールを作ることができないのでしょうか。

あくまでも運動、スポーツで聞いているので、「体を動かす遊びが好きですか」と聞いたら、また違うのかもしれない。

(教育長)

今、市長がおっしゃられるように、授業でやるものにはルールがあります。ルールの中でやろうとすると、走るのが苦手な子は走らなくなるんです。しかし、放課に自主的に走るならば、走るのが嫌いな子も一生懸命に追っかけて走ろうとするんです。

(渡辺委員)

合同授業は、少人数でやるよりたくさんの方でやる方が楽しい。アウトリーチは、ある程度運動の好きな子たちが上を目指すようなこと、刺激を受けるのにはすごくいい。スポーツ鬼ごっこは、運動の嫌いな子たち、運動をあまりしない子たちが運動をできるようにするためにやっている。それぞれ目的が違う。スポーツ鬼ごっこをして、運動の嫌いだっただけの子が嫌いじゃなくなるのかということをお話してほしいです。

(教育政策課長)

スポーツ鬼ごっこをしている中では、nが10違いますが、「好き」という子が58人から78人と20人増えています。

(高橋委員)

合同授業の時に思ったのですが、スポーツと遊びの違いをどこで切り分けているかで、回答が違ってきてしまうのではないかと。それがたまたま細谷と小沢のところはきれいに出ているのかなという仮説はあると思いました。

(市長)

この数字を見て、想像していたバランスは下地、石巻のように運動やスポーツは好きだが、体育の授業はあまり好きではないという子がたくさんいるのかと思っていました。運動やスポーツはあまり好きではないけれど、体育の授業が好きという子がこんなにいるというのは、想像できなかった。

(教育政策課長)

特に体育が楽しくないと考えている児童については、体を動かすことが楽しくないというよりも、授業なので評定がついて自分の立ち位置が明確になることで、得意ではない場合には楽しくないと考える。教育長が先に言われたように、体を動かすことが好きか嫌いかはまた別の話ではないかと思っています。

(渡辺委員)

休みの時間に遊ぶというのは当然とても大切なことで、運動生理学的に言うと、1時間授業をしたらその後運動しなくてはいけない。1時間勉強したら、歩いたり動いたりしないといけません。休みの時間は、しっかり運動することが本来必要なことなのです。

その点、トレーナー派遣事業はすごく大事だと思います。運動というのは「体をつくる」ということですが、やりすぎると体を壊すことにつながる。そういう意味で、トレーナーに来て教えてもらうということは、運動が嫌いという子にもすごくよいことだと思う。

(市長)

これから進めていく事業だから、子どもたちのどんな変化を見たら、結果がわかりやすいかを教えていただきたい。

(朝倉委員)

体力テストでは、50m走がかなり標準を下回っているのですが、走るときの手と足のバランスが悪いので、運動会の前などにそういう指導をしたときに、少しでもタイムが上がってくると、子どもたちはすごく自信をもつようになる。鬼ごっこなどで速ければその分逃げることができる。走ることがうまくできないというのは自分では気づけないので、トレーナーさんにコツを教えてもらって基本的な動きがわかってくると、50m走の結果につながってくると思います。

(渡辺委員)

運動が嫌いな人の中に運動が下手な人がいますね。うまくなると、運動が好きになります。ですから、正しい歩き方、走り方、トレーニングの仕方を子どものうちからしっかり身につけておく必要があると思います。

(市長)

50m走の数字が悪いというのは、すごく大きな問題だと思います。

(高橋委員)

さっきのことと関連するのですが、体力と学力の向上とどちらが重要かという価値観の問題が根強くて、この分野は蔑ろにされているから、結果が変化しないのではないかということが仮説としてあります。もっと健康に過ごすためという面について、教員を含めた指導者、保護者にもよく理解していただくことが必要ではないかと思います。

(教育長)

学力・体力は、行きつくところ教員研修ですよ。研修をきちんとやらないといけないということです。

(市長)

教員が自ら、アウトリーチを取り組みたい、スポーツ鬼ごっこというように、子どもたちと接している中で考えてもらうことが必要かもしれないですね。

(朝倉委員)

毎日の体育の授業で専門的な方に来ていただけないと、担任が体育の授業をするわけです。中学校のように専門の体育の先生ではないから、小学校では、体育が苦手でも授業をしなければいけない人もいますよね。そういうことでいうと、教育長が言われるように理科だけではなく、研修が必要だと思います。

(渡辺委員)

先生が教えていることの目的意識をしっかりと持つことが必要です。

(高橋委員)

技術の話の前に、体を動かすことで健康になるということをもう少し理解していただくことが必要だと思う。

(教育長)

この点、小学校の教科担任制は、成果が出ると思います。

体育はいま、教科担任制を行っていません。実現可能かどうかは教員の数を見ないとわかりませんが、高学年の教科担任制をやれば、体力は上がると思います。

(市長)

今、鷹丘小が民間プールの活用をしていますね。5年生と6年生を比べてみて、泳げない子の数が5年生の方が減っていたら、それは成果があったと言えるでしょうね。

(高橋委員)

今ちょうどプールの話になりましたけれど、この前見に行ってきた、教員とインストラクターでは、子どもに対する接し方が全然違うと思いました。教員は場所を借りているので叱るモードになっていて、インストラクターは自分のフィールドになっている。

(渡辺委員)

医者も専門家が進んできています。だから、科が違くと診られなくなることがあります。専門の人が診ると、そうでない人が診るのでは全然違います。教育の分野でも、専門の先生が教えるのとそうではない先生が教えるのでは違うと思います。教科担任制は、今後絶対に必要になってくるでしょう。もちろん、何でも教えられる先生ももちろん必要ではあるとは思いますが、教科担任制を今後も行う必要があると思います。特に体育は専門的なものなので、トレーナーというのは大事だと思いますし、そういう人を増やしていく必要があると思います。

いま教員の免許システムについて少しずつ議論されていますが、小学校で一人の先生がほとんどすべての授業を教えるというシステムは、今後変えていかないといけないのではないのでしょうか。

(市長)

外部のプロフェッショナルとどうやって上手に一緒にやれるかということも重要ですね。

(渡辺委員)

一つは、「開かれた学校」ということで、外部の人に学校に来てもらって、先生が足りないところ、専門的なところを補っていくというのは今後の学校に必要なのではないのでしょうか。

(山西教育長)

自分がこの職をいただいた時に市長から「学力」「体力」「不登校」はミッションだと言われて、それ以後ずっとまな板の上に乗せさせていただいて、確実に一歩ずつ歩んではいると思っています。今日もいろんな話をいただいて、今年度一つの事業を実施した結果をみて、また一歩進んでいけたらと思っていますので、期待していただければと思います。

(内浦委員)

この前、時習館高校でお話に行った時のことです。私が在籍していたころの陸上部は、部員がすごく少なかったですが、今は、鈴木亜由子さんの影響なのか80名を超える方が部員になられていると聞きました。だから、スターが出ると、とても影響があるんだなとその時思いました。

(渡辺委員)

オリンピックみたいな人に時々来てもらうといいですね。

(市長)

スターがいると一緒に走りたい。バスケでもあこがれのプレイヤーがいて一緒にコートに入りたい。それで好きになってくれれば。そして、ちゃんとしたトレーナーのもとでちゃんとした指導をしてもらえば、そこなんです。

協議事項②

■生涯学習課長 協議事項について資料説明

- ・「少年自然の家」と「野外教育センター」のあり方について

(市長)

それでは、今の説明につきまして気が付いたところから発言していただきたいと思いません。

(高橋委員)

稼働率の計算の仕方はどうなっているのでしょうか。キャパに対して常に積算しているのか、日数で一人でも来れば稼働しているのかどうか。効率の問題が稼働率の計算の仕方が違うと随分違うので、そのところがわかれば教えていただきたいと思えます。

もう一つは、近隣の市町は野外活動でどこを使っているのか。これからは広域での利用も考えていったらどうかと思えます。

(生涯学習課長)

稼働率ですが、各部屋を利用時間ごとに一人使っていれば稼働しているということで計算されます。

豊川の小学校は26校ありまして「きららの里」を利用しています。すべてロッジでテントではありません。それから、蒲郡は13校ありまして、旭高原、美浜少年自然の家。こちらもテント泊はなくて建物泊となっております、田原は、小学校が17校ありまして、9校が県民の森、8校津具グリーンパークです。県民の森の9校のうち8校がテント泊。津具の方は、バンガローです。

(市長)

田原が持っている江比間の野外センターはどうですか。

(生涯学習課長)

使っていません。

(高橋委員)

誰の所有物ですか。

(生涯学習課長)

豊橋と田原で、半分ずつ出資しています。誰も使ってないですが、来年度は、学校に希望調査をかけます。今のところ、中学校は市外にも出られるのですが、小学校は市外に出られないことになっています。それを変えまして、田原へ行けるようにして希望調査をします。

(市長)

他市は、山に行っていますね。津具までだと、かなり時間をかけて行っている。

野外教育センターは、すごく景色がいい。25m、30mの標高だと思いますが、そこは安全ですか。津波はどうですか。

(生涯学習課長)

高いです。野外の建物のところで35mあります。

(市長)

利用者数と収入を見ていくと、一人10円ぐらいしか払っていませんね。11900人の利用者がいて、119800円の収入。自然の家の方も、358000円の収入があって、10700人の利用ということは、35円ということになります。これは、小中学生はただだから、一般社会人が使ったときに使用料をとっているということですね。

(高橋委員)

施設としては両施設ともそのままにはいけないという状況が前提としてありますというのであれば、両方にするのか、どちらかにするのか、それ以外の場所にするのかで再投資が必要ですね。再投資に対する教育効果を重点としてみるのか、収益性はどのくらいまで加味するのかという前提は少し議論しなければいけないでしょうね。10%から20%の稼働率ということは、逆に言うと80%から90%は遊んでいるわけで、放置しますか努力しますか。本来、教育的施設だから、教育的効果にもっと重点を置いて、最初からそこは放置しましょうと決断する。決断したうえで放置しなければいけないですよ。

(市長)

プールを使う前に自分たちでプール掃除をするように、教育的に使う際に掃除も含めて考えれば、職員を置かないで監視要員が一人いればよしということもありですね。

(高橋委員)

この施設を使って何をするかですね。ビジネスであれば、費用対効果がありますが、公共の施設で、なおかつ教育委員会がということであれば、教育的効果ということになります。

(市長)

ミッションをはっきりさせて、そのために必要な経営形態をとって、あとは子どもたちにどうやってちゃんと使ってもらうか、教育に結びつけるか。先ほどの説明で言うと、自然の家をベースに考えていきませんか。安全も含めて、休憩施設の問題もあるし、(野外教育センターは)高さが海からぎりぎりでもあるし、という提案ですね。ただ問題は、自然の家の方が圧倒的に狭いですね。活動するときには大規模校が来て、集まることは何とかできますが、活動はできないですね。野外教育センターのグラウンドは残しながらということもあると思うけど、ちょっと距離がありますね。

(渡辺委員)

少年自然の家から海に降りる道が今は使えないですね。あれは、使えるようになる可能性はあるのでしょうか。

(生涯学習課長)

投資をすれば可能です。

(市長)

何か危険があるから使わなくなったのですか。

(生涯学習課長)

小さな橋があって、その両側が崩れてしまったものですから危険になりました。

(教育長)

あそこは、整備すれば使えますよね。ただスズメバチの危険があります。でも、場所的には少年自然の家が良いと思います。

(市長)

残すとしたら、少年自然の家の方が将来にわたって安全に使える。大規模校にとっては、狭いことは活動する上では支障になりますが。

活動スペースもあまりないです。平地が全然ないです。

(市長)

二つを一つにせざるを得ないなということは、基本認識として考えていいですね。

(高橋委員)

山が崩れてくるというリスクは放置できませんね。

(教育長)

ここは宿泊棟がないので、去年暴風警報が出た時に、宿泊場所（バンガロー）に移動するのは危ないということで、親に迎えに来てもらいました。活動場所と宿泊する場所が別になっているものですから。野外教育センターなら館内にいた方が安全なのですが。

(市長)

コンセプトと基本設計を早く考えないといけないですね。

(市長)

建て替えるなら、5年以内ですね。森の中にふさわしい、CLT工法の4階建ての木造で建築するのも良いと思う。

(教育長)

今後の方向性としてはどうでしょうか。

(市長)

方向性としては、自然の家をベースにどんなことを子どもたちにしてもらうか、大規模校はどのように対応しようか、そういう問題がありますね。それから、活動エリアが少し足りないなという意見が出ました。これを踏まえて、ここをベースに絵が描けそうかどうかを次の時まで、今日は20人位いるから、20人の力を合わせてちょっとやってもらいましょう。あと先生たちには、ここで本当は何をやらせたいのか、今やらせていることが本当にやらせたいことなのかということミッションとして把握しておいてほしいと思います。

(教育長)

わかりました。

(市長)

場合によっては山村交流用地などのあり方なども踏まえ、一緒にやったらうまくいけると思う。

(高橋委員)

自分の立場からすると、比較的表浜にはこだわりたいですねという暗黙の認知があるような気がするので、本当にこだわっているのかどうかという話はしないといけないと思います。

(市長)

個人的には、表浜は東三河の中で最高の自然財産だと思うので、豊橋の子どもたちは表浜になじんでほしいと思っています。

(高橋委員)

ナショナルネイチャーセンターみたいなイメージにするとおもしろいと思うんです。

(市長)

実は、ミッションの中に学校教育だけでいいのかというのが次の話で出てくると思います。サーフィンをやっている子たちの活動拠点に生かせないかということにもっていきたいんですよ。でも、まずは教育で何ができるかということを第一義的に考えないといけないですね。

(渡辺委員)

野外教育センターをうまく活用すればいいと思います。

(市長)

他のことに使いたいと言われても、民間に提案を求めて何かやってもらうというぐらいしかできないでしょう。そこには、市の投資を一緒にやってくださいというような負担がくると思うので。もっと気楽にシャワールームときれいなトイレがあれば、あとは自分たちでテントを貸し出ししたりすればやってくれるというようなものでもよいと思います。それでよければそんな使い方もあるし。バーベキュースペースがほしいとか、サーファーが土曜日の朝早くに来て、朝ごはんを作って食べてから波に乗りたいということも当然あると思います。

それでは、教育の分野と施設の分野でそれぞれ議論をして、次の提案をお待ちしております。

続いて、他に今後の協議事項についてお願いします。

その他

今後の協議事項について

■教育政策課長 資料説明

(市長)

何か加えてほしいことや、これについて報告していただけたらというものがあれば発言してください。

先日の学力診断テストの答えは9月6日の会議には間に合いますか。

(教育長)

間に合わないと思います。

(渡辺委員)

統廃合とかも考える必要があるかということと、僕が常々思っているのは、今の学校は教室があって先生が授業してとなくなっていますね、そういうシステムを今後ずっとやっていくのかどうかとかその辺りを一度話し合ってみてはどうかと思います。

(市長)

とんがった学校は、「うちはこれで行くからこい」みたいなことも。STEMみたいなのをうちの学校は小学校5年生から始める。高校に入るときには、スーパーサイエンスの中でもトップレベルになるような学校をつくるとかいうことをやってくればいいですね。

(渡辺委員)

未来の授業はどうなっているのか、未来の教育はどうなっているのかを踏まえて、今後学校が古くなってきますから、建て替えの時期が来るわけですよ。それに向けて、同じものをまた作っていくのではだめだと思います。1回作れば80年だとすると、80年先の学校がどうあるべきかということも議論しておく必要があるのではないかと思います。

(市長)

動きとしては、高根小学校で階段教室を作って授業をやる。壁は全面ホワイトボードで好きなことを書きながら話し合う。アクティブな学習です。たぶん珍しいやり方になります。教室そのものは、今のところ大きな動きはないです。

(渡辺委員)

そういうときに「開けた学校」というのですか？今後学校をつくるときに、地域の人たちと一緒にどんな学校をつくろうかという話をしていけたらどうかと思います。地域に開かれた学校となるので、地域のニーズに応えられますし、地域ぐるみの教育システムが確立されてくるのではないかと思います。

(市長)

もともと教育は、地域からすると使わせてくれなかった。避難所から始まって、少しずつ変わってきているのですが、子どもたちのセキュリティの問題をどうするかということが最後の壁になります。今、特別支援学校はかなり地域の人たちが入って使われている。今度の高根小は、児童クラブと完全に扉で接していて、地域の人たちに支えてもらう設計になっていて、だいぶ変わってきています。話し合いは始まっていますが、こちらが何かモデルのようなものを作っておかないと意見をもち込んでこないということが予想されるので、やっていることをもっと発信していくということをしたらよいと思います。

(渡辺委員)

学校のシステムがどうなっていくかということを広くみんなと議論していく必要があるのではないかと考えています。

(市長)

前芝は、遊んでいるときには地元の人をどんどん使ってよいことになっています。どんどん変わってきています。

(渡辺委員)

いわゆるコミュニティスクールがいろいろなところでできてきていますが、そちらの方向へ進めていく必要があるのではないかと考えます。

(市長)

児童クラブのようなところで、走るのが好きな人は、トレーナーみたいな人に教えてもらえる。音楽の好きな人は、リタイアした音楽の先生にピアノを教えてもらうというのもよいと思います。

(渡辺委員)

地域の人材やいろいろな資源を取り入れていくというように、先生だけで学校を運営していく時代は終わっていると思います。ですから、いろいろな人が関わって、地域ぐるみで子どもたちを育てていくという感覚で、今後もし新しい学校をつくっていくのであれば、この地域の人たちと一緒にやっていく。

(教育長)

地域は校区でありますから、校区は外せないと思います。地域の人が入ってこられるようなものをつくらないとならないですね。

(市長)

みんなで見守りながら子育てしているように思いますが、実は一番育てられているのはお年寄りだったというのがあります。刺激を受けてね。そのうち、そこに老人クラブが入るかもしれない。

(市長)

今、2040を進めているのですが、その中に「学校はどうなっていくだろうか」ということを提案していきましょう。

(内浦委員)

私は、教育委員として保護者枠なのですが、保護者ということで切実な悩みがあります。保護者を代表してPTA問題です。私は、保育園の保護者役員に手を挙げたわけではないのになりました。キャリアをもった女性は、見えないストレスが多いです。物理的なストレスだけではなく、ラインなどのSNSがコミュニケーションの主流になっている中で、お父さん方や先生が見えていないお母さんたちの教育に携わる姿勢のストレス。また、PTA役員になりたくないストレス。そういうことも開かれた学校を考えていく際に盛り込んでいただけると、豊橋の何%かの女性は、子育てと仕事のストレスから救われる気がします。

(高橋委員)

規定からすると、「PTAそのものが保護者の生涯学習である」とされています。だから、保護者を教育しましょう。ところが、「何で私たちはまた教育を受けないといけないの」と思う人たちがいます。

私は、一度リセットした方がいいと考えます。そのぐらい形骸化しています。仕組みが変わらないということに対するストレスがすごいです。

(朝倉委員)

時代が変わりました。私も専業主婦だった時に引き受けたのですが、今はみんな仕事をしているので、回されたくないのです。そのころは、週1回2回ぐらいならと思っていたのですが、親の生涯学習と思ってはいなくて、勤労奉仕のつもりでいました。

(内浦委員)

産みやすいとか、育てやすいとか、教育を受けさせたい町の一環としてPTAのあり方を考えてもらえると、お母さんたちはPTAを怖がらなくなる。PTAになるかならないかというところに戦々恐々としなくてもいいし、もしなっても楽しくでき、負荷が少なく済むと思います。

(市長)

校長先生の中で関心のある人に何人か来てもらえるとおもしろいですね。

そういえば、僕のもとに届いている話ですが、小学校は地域の学校だからそのままいいですが、中学校は臨機応変に考えてほしいと言われているのですよ。

本当は、中学校も特色をもたせて、子どもが選んで通えるというのは、ある一定の範囲では許容しないとイケないのかもしれないですね。

(教育長)

その方がやりやすいと思います。小学校はそういうわけにはいかないですけど。

(市長)

小学校は、地域の活動というのがあって、あんたは隣の学校へ行っているから知らないよというのはよくないですからね。

(渡辺委員)

子どもは「教育権」をもっているわけですから、行きたいところで勉強できるというのは必要ですね。それは守ってあげないとイケないですね。

(市長)

昔ってどうしていたのでしょうか。明治時代の人ってどうしてあんなに勉強できたんだらう。日本の教育システムは、当時の世界の中では充実していたのではないのでしょうか。

(高橋委員)

昔は、一定の人が集中できる環境があったのでしょうか。僕はこれに集中したいと言ったら、集中できる環境があったのではないのでしょうか。

(市長)

地元の方は、そのためにお金を惜しまず、その子の成長のために注ぐという風習もありました。

(渡辺委員)

村の優秀な人を育てていくというのは、村の発展のためにやってたんですよ。地域ぐるみでそういったことができるようになれば、PTAの問題も出なくなる。

(市長)

特になければ、今日の会議はこれで終了させていただきます。

連絡事項

- ・ 次回開催日程

平成30年9月6日（木） 15：00～